

自己評価表(令和4年度)

愛媛県立新居浜南高等学校

学校番号(6)

教育方針	個性豊かで広い視野を持ち、心身ともに健全な人間を育成する。	重点 努力 目標	1 主体的に学び、個性を磨き、自己実現に努力する態度を育成する。 2 挨拶等の礼儀や身だしなみを整え、基本的な生活習慣を育成する。 3 学校行事や部活動、奉仕活動の活性化により、心身を錬磨し、社会性を育成する。
------	-------------------------------	----------------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
① 組織運営等	教職員間の共通理解	教育目標を達成するために、教職員間の共通理解を図り、円滑なコミュニケーションや連携・協働体制を構築する。気軽に話ができる場と機会を設ける。	C	教職員間の共通理解は概ね図られている。ただし、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、気軽に話ができる場等を設けることが少なかった。	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となれば、以前のような通常の教育活動が実践され、教職員のコミュニケーションや相互理解が進展することが期待できる。
	会議の効率化	運営委員会や職員会議、各種委員会の円滑化を図り、効果的に運営を実践する。グループウェアや校務支援システムなどを積極的に活用することで無駄を省き、スリム化を図る。	A	関係部署との事前連絡・調整を奨励し、運営委員会や職員会議の所要時間が大幅に削減できた。グループウェアや校務支援システム、Google suite for Educationを積極的に活用し、無駄の削減が進んだ。	運営委員会や職員会議では、事前の各分掌間の調整や関係者の相談等を密にして、時間短縮を図る。グループウェア等をさらに活用することで、効率的な審議や連絡を進めていく。
	危機管理意識の高揚	学校の安全管理に関する教職員の危機意識を毎月定例の職員会議において喚起する。	B	職員会議だけでなく、グループウェアのメッセージ機能、マチコミ等を活用して、安全に関する情報提供や安全意識の啓発を行い、危機管理意識の向上を図った。	校長面接や定期的なアンケートは、教職員の声を聞くための有効な手段であり、その上に日常的な会話の場面を意識的に増やしたり、各準備室に直接足を運んだりとすることで、コミュニケーションの強化を図りたい。
	職場環境の整備	教職員の心身の健康に配慮された、能率よく勤務できる職場環境を整備する。教職員間の業務量の多寡を調整し、働き方改革を進める。超過勤務時間の多い教職員数の前年比50%減を目指す。A:50%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:20%以上 E:それ以外	E	教職員の心身の健康については、管理職から個々への声掛け等を通じて、問題点を把握し解決するよう努めた。働き方改革については、業務量の多寡を調整したもののうまくいかなかった面もある。超過勤務時間の多い教職員(超過勤務が月80時間以上)は、前年と比較してわずかな減少にとどまった。	校長面接や定期的なアンケートは、教職員の声を聞くための有効な手段であり、その上に日常的な会話の場面を意識的に増やしたり、各準備室に直接足を運んだりとすることで、コミュニケーションの強化を図りたい。
	南高満足度の向上	魅力ある学校づくりに努め、南高へ入学してよかったと思える生徒の増加を図る。学校評価アンケートでの評価を前年比10ポイント増を目指す。A:10ポイント以上 B:8ポイント以上 C:6ポイント以上 D:4ポイント以上 E:それ以外	E	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に合わせ、種々の行事が中止・縮小、参加者の制限などの対策が必要となり、残念な時期もあった。学校のホームページを充実させることで情報発信に努めた。学校評価アンケートの評価は、対前年度比で-5%。	本校の特色である多種多様な学校行事や部活動、それに関連した各種大会が3年連続で規模の縮小や延期・中止されたものもあったが、そのような状況下で学んだ工夫や新しい方法を実施していきたい。それらをより吟味して、生徒の学校生活を充実したものにできるように配慮したい。
② 教育課程・学習指導	教育課程の充実	各系列の特色を生かし、生徒の進路実現のために充実した教育課程を編成する。系列集会を月1回以上実施するなど、系列の特色をより鮮明にして、生徒の活動の場を設定する。	B	八つある各系列の特色を生かした教育課程を編成している。各系列における教育の充実や2年次生と3年次生の交流を図ったり、特色を出したりするために系列集会を行っている。	系列を中心とした学習の推進は、総合学科としての大きな特色であり、系列集会を導入している。今年度は、実施内容や取組について、系列の趣旨や実施内容を練ることで、系列の特色を生かした活動ができ充実させることができた。
	学習指導の充実	学習方法の指導などガイダンス機能の充実を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の確立を図る。	B	学び方の指導も含めて、細やかな学習指導ができた。生徒の学習の様子や成果を認めることで、学ぶ意欲の向上を図ることができた。	国立大学への進学者を増やすなど、生徒の可能性を広げるような学習指導及び進路指導をより充実させていく。
		課題テストや小テストを実施し、「やればできる」ことを生徒に実感させ、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	B	各教科科目で課題テストや小テストを実施するなど、生徒の学習意欲の向上に資することができた。Google suite for Educationを全校で導入しており、個別対応も可能となっている。	「生徒一人一台端末」の活用について、教職員間に多少の温度差はあるものの、進捗状況は良好である。適切な場面でより効果的な活用ができるように教材研究を行うなどGIGAスクール構想の実現へ向け確実に前進できるよう取り組んでいきたい。
	授業の充実	生徒一人一人に対して、生徒の実態に応じた個別指導を徹底し、生徒の学力の定着と向上を図る。学校評価アンケートでの授業満足度100%を目指す。A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	B	生徒の発達段階や学習の到達状況に応じた丁寧な個別指導ができた。3年次生に対しては、就職指導、進学指導ともに充実した指導ができた。授業評価アンケートでの評価は、96.0%	生徒の授業に対する評価は高い。来年度以降も、ICT機器を積極的に活用するなど、さらに努力したい。
③ 生徒指導	指導体制の確立	全教職員の共通理解の下、一貫性のある指導ができる組織的な体制を確立し、指導を行う。毎月1回、年次ごとの指導を行う。	A	教職員全体で共通理解が図られ、生徒一人一人を大切にした生徒指導がなされている。	校内研究授業を計画的に実施するなど、教員相互の授業改善に対する意識は高い。今年度は参観シートを導入し、フィードバックする方法を工夫した。
	基本的生活習慣の確立	高校生らしい身だしなみで生活できるように、教育活動全般において継続的な指導を行う。また、しっかりとした規範意識の醸成を図る。身だしなみ指導合格生徒100%を目指す。A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	B	月1回程度行われる定期的な身だしなみ指導、ホームルーム担任による日々の指導や各授業での日常的な指導によって、生徒は高校生らしい身だしなみを維持し、落ち着いた学校生活を送ることができている。	生徒の授業に対する評価は高い。来年度以降も、ICT機器を積極的に活用するなど、さらに努力したい。
		出席率の向上を目指し、遅刻や欠席の目立つ生徒への段階的指導を行うとともに、家庭や関係機関と連携し、生活習慣の改善を促す。1か年啓動生徒150人以上を目指す。A:150人以上 B:140人以上 C:130人以上 D:120人以上 E:それ以外	B	特定の生徒で欠席・遅刻が多い生徒が数名いるが、生徒の出席状況は、おおむね良好である。各年次で、主任・ホームルーム担任が生徒一人一人に向き合い、きめ細やかな指導を行うことができた。	校内研究授業を計画的に実施するなど、教員相互の授業改善に対する意識は高い。今年度は参観シートを導入し、フィードバックする方法を工夫した。
	家庭・地域との連携	本校の生徒指導の方針や取組について、家庭・地域・関係機関に理解していただくとともに、連携しながら指導を行う。	A	明らかな挨拶ができる生徒は多数いるが、挨拶や返事がしっかりとできない生徒がやや増えてきたように思う。運動部活動への加入率が低下していることも一つの要因かもしれないが、やや活気が薄れている感じがする。	生徒指導において、教員間での指導に偏りが出ないように、生徒指導の基本方針を全教員に示し、共通理解の下、生徒一人一人の個に応じた指導を引き続き行っていく。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
④ 進路指導	進路実現	生徒一人一人の進路希望の把握に努め、教職員の共通理解の下、3年間を見通した進路指導を行う。進学・就職とも希望する進路実現100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	A	全教職員協力の下、生徒の進路実現のための進路指導やキャリア教育指導が計画的に実施できた。国立大学の合格者も2名と、昨年の4名には及ばなかったものの、まずまずの成果を出すことができた。早期に進学・就職とも進路実現100%を達成することができた。	今年度も就職・進学ともに生徒の進路希望を叶えることができ、ある程度生徒や保護者から好評をいただいている。ただし、毎年どうしても3年次担任をはじめ、教員個々人の努力に頼る部分も大きく、負担が偏ってしまう。小論文指導や面接指導を組織的に行いたい。進路の特性上、どうしても偏りが出てしまうが、できるだけ各教員の負担を減らせるようなシステムを構築したい。
	面接指導の充実	就職試験や進学の推薦入試等に対応できるマナー指導や面接指導等を全教職員の理解と協力の下、実施する。	B	挨拶や身だしなみなど、基本的な生活習慣は校内をあげて取り組むことができた。特に夏季休業中には全教職員の協力のもと、就職試験に向けた面接指導を実施し、全員内定という成果として表れた。	大半の生徒は進路実現について前向きに取り組んでいるが、まだ自分自身のこととして捉えることができずに、保護者や教員が叱咤激励しないと自ら行動しない生徒もいる。生徒の意識が変わるような講演会等を取り入れていきたい。
	情報提供の促進	進学や就職の情報を本人や保護者に提示し、周知に努めるとともに、進路指導室・進路資料室やホームルーム教室等に、年次に応じた進路資料等を準備し、活用を図る。	B	今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けた進路関係の行事もあったが、リモートを活用しながらできるだけ効果的に実施できた。	次年度は新型コロナウイルス感染症拡大前のような諸事業を行う方向で準備していきたい。
⑤ 特別活動・ボランティア活動	ホームルーム活動	各年次に合わせた適切なホームルーム活動の主題を設定して、計画的に実施する。	B	各年次で計画的なホームルーム活動が実践できている。反面、クラス独自のテーマ設定時数が少なく、担任の個性を活かしたクラス経営や生徒間の相互理解を深める機会の確保に、課題が残る。	人権・同和教育のホームルーム活動や保健に関するホームルーム活動、地域に根差した実践的な活動などができており、今後も継続し、さらに発展させたい。生徒会役員選挙や各種学校行事の実施に当たり、生徒は主体的に活動し、生徒会選挙(副会長)の「電子投票化」や「Web 南高展」「南高の日」の実施など、新たな取り組みにチャレンジしてくれた。
	学校行事・生徒会活動	生徒が学校行事や生徒会活動に主体的・積極的に参加し、教師と生徒が連帯感を持って取り組む諸行事の実施を図る。学校評価アンケートでの学校行事満足度100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	D	今年度は、COVID-19の感染拡大への対応に加え、体育館と武道場の改修工事により、学校行事や生徒会活動も大きな制限を受けた。前年度の経験を生かし、「できること」を生徒と教員が一緒に考え、工夫しながら実践できたことは、大きな成果である。生徒会活動も、主体性を発揮して取り組めており、満足度の数値以上の意義と成果があった。学校評価アンケートでの評価は、79%(生徒)。	生徒会役員選挙や各種学校行事の実施に当たり、生徒は主体的に活動し、生徒会選挙(副会長)の「電子投票化」や「Web 南高展」「南高の日」の実施など、新たな取り組みにチャレンジしてくれた。その分、事前の準備に教員の支援が必要な場面もあったが、昨年度にまいた種が着実に成長し、今年度の成果につながったと確信している。新年度の活動がさらに充実するよう、支援していきたい。また年度当初には、生徒会の組織改変とそれに伴う規約変更を成立させたので、今後の活動をさらに充実させていきたい。
	部活動	生徒の健康面や安全面に留意し、好ましい人間関係の育成などに配慮した運営を図る。部活動加入率90%以上を目指す。原則、平日・週休日に各1日休養日を設け、効率的な運営を目指す。 A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:75%以上 E:それ以外	A	今年度は、COVID-19の感染拡大への対応に加え、体育館と武道場の改修工事により、学校行事や生徒会活動も大きな制限を受けた。しかし、制限された環境下であっても、指導者と生徒たちは精一杯、1日頃の活動の成果を発揮できたと考え、学校評価アンケートでの評価は、82%(生徒)。	今年度COVID-19の感染拡大によって、学校行事や部活動、ボランティア活動等に、大きな制約を受けた。科学的なデータに基づいて、生徒の安心・安全が確保された教育活動の実践に、引き続き学校をあげて取り組んでいきたい。教員のワークライフバランスの実現とともに、生徒のバランスのとれた心身の育成を目指し、より一層、特別活動の在り方を研究し、実践していきたい。
	ボランティア活動	ボランティア活動参加数延べ1,000名以上を目標に、中心として活動するユネスコ部やVYS部、家庭クラブ等を生徒会が支援する形で、全校生徒の意識の高揚を推進する。 A:1,000名以上 B:950名以上 C:900名以上 D:850名以上 E:それ以外	E	今年度もCOVID-19の感染拡大によって、ボランティア活動の中止や縮小を余儀なくされるなど、大きな影響を受けた。制限された環境下でも主体的に対応し、参加者も昨年比で220%以上増加するなど、高く評価できる。ボランティア活動参加延べ人数は、524人。	今年度COVID-19の感染拡大によって、学校行事や部活動、ボランティア活動等に、大きな制約を受けた。科学的なデータに基づいて、生徒の安心・安全が確保された教育活動の実践に、引き続き学校をあげて取り組んでいきたい。教員のワークライフバランスの実現とともに、生徒のバランスのとれた心身の育成を目指し、より一層、特別活動の在り方を研究し、実践していきたい。
⑥ 保健管理	保健活動	学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付け、全教職員が役割を分担して活動できる体制を構築する。	B	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、開催できなかった保健関係の行事も多かった。しかし、教職員が一丸となって、保健衛生に関する意識を高めることができた。	生徒や教職員の心身の健康について、組織的、体系的な啓発を継続したい。とくに、衛生委員会を効果的に活用することで、よりよい環境づくりに努めたい。新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症に対する知識や理解を深めていけるように、全校全体で引き続き取り組みたい。
	健康管理	健康診断と事後処置を計画的に実施し、衛生委員会等を通じて全教職員の健康への意識の高揚を図る。	B	昨年度同様、手指消毒やマスク着用などの感染予防や、感染症に対する知識の共有などができた。	学校内の様子について、マナーと環境教育の両面から、しっかり指導していきたいと考えている。
	安全・衛生・清掃美化	美しい環境づくりと、ゴミ分別の取組をはじめ、学校の教育活動全体を通して、生徒への安全や衛生に関する意識の高揚を図る。	B	美化委員を中心にゴミ分別の取組ができた。また、安全点検を毎月行い、よりよい環境づくりに努めることができた。	地域との連携は不可欠であることもしっかり理解してもらえようように校内の研修も計画したい。また、フィールドワークや聞き取り学習を主題に応じて適切に実施し、生徒の主体的な学習活動の促進につなげたい。さらに、外部の方との連携などにより、人権意識のより一層の高揚を図っていく。進路保障においては、差別を見抜く力を養わせ、適正に進路が実現できるように啓発していきたい。
⑦ 人権別・支援と教育、	教職員研修	全教職員が人権・同和教育及び特別支援教育についての意識を高め、指導の力量を身に付けていくための研修を実施する。	B	人権・同和教育、特別支援教育それぞれの分野に関連する教職員研修が実施できた。専門的な研修により、全教職員の指導の力量を引き上げることができた。	地域の研修会などへの参加を呼び掛けでも、多忙な教職員の参加者を増やすことは難しいと感じている。今後は、参加しやすいような呼び掛けや、仕組みを考えていきたい。人権・同和教育に取り組む上で、地域との連携は不可欠であることもしっかり理解してもらえようように校内の研修も計画したい。また、フィールドワークや聞き取り学習を主題に応じて適切に実施し、生徒の主体的な学習活動の促進につなげたい。さらに、外部の方との連携などにより、人権意識のより一層の高揚を図っていく。進路保障においては、差別を見抜く力を養わせ、適正に進路が実現できるように啓発していきたい。
	生徒の主体的な取組	各種の学校行事や人権委員会の活動を通して、生徒の主体性を育みながら人権意識の高揚を図る。	B	現地研修会や人権・同和教育ホームルーム活動等により、生徒は人権意識を身に付けることができた。また、シトラスリボン運動の啓発を外部のイベント等で実施でき、意識を高めることができた。	今年度と同じペースで研究授業を行い、教員の指導力向上に努めたい。授業参観者を増やすため、個別に働き掛けを行いたい。
	進路保障	様々な困難な条件下にある生徒に対して、家庭・地域・関係機関等との連携を図りながら進路保障の徹底に努める。	B	オープンスクールや応募見学などを利用して、生徒は進路先について情報を得て選択することができた。保護者・学校が連携を密にすることで、生徒は各自の進路目標を達成することができた。	朝読書を継続して行い、読書習慣の更なる定着を図りたい。クラスや年次で新刊の紹介を行うなど、図書委員の活躍の場を設け、読書意欲の向上を図りたい。
⑧ 図書・研修	現職教育	教育公務員としての自覚と使命感の高揚に資する研修等、必要な研修を必要な時期に必要な対象者が受けられるように情報を周知するとともに、計画的に実施する。	C	研修の案内について、グループウェアの掲示板を利用して周知を図ったが、参加希望者が少なかった。個別に働き掛けをすることが必要かと思われる。	休日みや放課後等、居場所を求めて図書館を利用する生徒も多く、生徒の拠り所になっている。毎日昼休みに図書館で新聞を読んでいる生徒がいるので、新聞は継続して置いておきたい。利用しやすい図書館の環境作りを心掛けた。
	教科指導の充実	全教科で授業の研究等を実施し、授業を校内や地域に広く公開することで、教員の指導力や生徒の学習活動の向上に努める。	C	予定されていた研究授業は、計画通り実施することができた。研究授業を参観する人数を増やすための方策を考える必要がある。	
	読書意欲の向上	朝読書の充実をはかることで、生徒の読書への意欲を高める。また、図書館の環境整備に努め、本の魅力を発信する。	C	教科と連携し、本の貸出冊数を増やすことができた。各年次とも毎朝静かに本を読み、心穏やかに朝の時間を過ごしている。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
⑨ ICT	機器の整備と活用	全教職員が「生徒一人一台端末」を活用した教科指導を実践し、生徒の学力の伸長を促すとともに学習意欲の増進を図る。また、教職員の指導力の向上ために全体的な研修や個別の情報交換を進め、GIGAスクール構想を推進する。	C	アンケート結果等より、「生徒一人一台端末」の効果的な活用がなされてきているように思われる。教職員への全体的な研修ができていないため、次年度以降研修の場を設けたい。	「生徒一人一台端末」の効果的な使用についての全体研修を1度はできるようにする。各部活動の大会や学校行事等、ホームページの更新ができるタイミングで、更新していただけるよう働き掛ける。日々ブログではないところで、滞っているものについては、早急に更新していく。
	ホームページの整備と活用	ホームページの更新回数を週5回以上とすることでタイムリーな学校の情報を発信し、学校の様子や生徒の活動状況を広く周知する。 A:5回以上 B:4回 C:3回 D:2回 E:それ以外	C	ホームページの更新は活発であるが、更新者に偏りが見受けられる。しかし、それが悪いことではないと自身は思っているため、更新のネタがある人は是非更新していただけるよう働き掛けたい。	
⑩ 教育相談	教育相談の周知徹底	「教育相談だより」を学期に1回以上発行し、教育相談活動の周知と理解を図る。また、教育相談室を活用して気軽に相談できるように工夫する。	C	「教育相談だより」を学期に1回以上発行し、教育相談活動の周知と理解を図る。また、教育相談室を活用して気軽に相談できるように工夫する。	今年度は教職員研修として、愛媛県総合教育センターより講師をお招きして、「特別支援教育の視点を取り入れた学級経営・授業づくり」の講義及び演習を行った。本年度は、新入生を中心に配慮を要する生徒が増加しており、今後も生徒理解を深め生活指導や学習指導を行っていくために、研修を継続していきたい。
	生徒の状況把握	各年次主任、ホームルーム担任、スクールライフアドバイザーとの連携を密にして、生徒の状況把握に努め、必要であれば早期に対応する。	C	1年次生全員に心理テスト後、スクールライフアドバイザーを中心に教育相談課員と面談し、また年2回実施している「いじめや悩みに関するアンケート」を実施し、悩みの早期発見・早期対応に努めた。	
	教職員間の情報交換	問題や悩みを抱える生徒や保護者について、連絡会を設けるなどとして、教員間の共通理解に努める。	C	随時、関係教職員において情報交換を行った。また年4回「いじめ防止委員会」を開催した。また「支援会議」の内容は職員会議でその都度報告し、共通理解を図るとともに教職員研修の機会とした。	
域⑪ 住民連携等との地域	保護者への情報提供	南高通信やPTA通信の発行、保護者懇談会や家庭訪問などの実施によって、学校での生徒の状況が保護者によく分かるように情報の提供に努める。	C	ホームページの更新が遅れたが、南高通信は概ね発行できた。PTA通信は作成中で、掲載内容などについては、課内や他課との調整を昨年度より緊密にできた。	南高通信については、発行時期をそろえたい。また、内容については、年度当初にある程度を見通しを立て、幅広い内容にすること。ホームページとの調整などを加えたい。地域との交流活動は、今後コロナ前に戻ることが予想される。先ほどの南高通信などにも地域との交流活動や連携事業の掲載を増やしたい。
	地域との教育活動	地域の行事に積極的に参加・協力したり、地元中学校や公民館等関係諸機関との交流を積極的に行ったりすることで、地域に生き、地域に貢献できる生徒の育成を図る。	B	昨年度と比べて地域行事への参加や交流は回復傾向にある。ライフスタディⅡ発表会などで地域の方の参加を増やすことできた。	
⑫ 産学連携等・時総	キャリア教育の推進	「産業社会と人間」「ライフスタディⅠ」「ライフスタディⅡ」に主体的に取り組ませることで、望ましい職業感や就労観を育み、キャリア教育の推進を図る。ICTを活用して個別最適学習の推進を図る。	C	コロナ禍の影響はあるものの各事業は平常に戻りつつあった。ものづくりゲンバ体験や社会共創講座の試行実施、ライフスタディⅡ発表会の対面実施など一定の成果を得ることができた。Locas1については、年次での活用にはばつきが見られ、検討が必要と考える。	ものづくりゲンバ体験の本格的実施、角野公民館と連携した地域共創講座の展開、Locasの有効な活用法の研究・実践、ライフスタディⅡ発表会のさらなる充実化を図って行きたい。また、「南高の日」とオープンスクールの融合実施を実現したい。
⑬ 事務管理	親切な対応	来訪者及び電話への対応を親切かつ丁寧に行うことで、生徒や保護者、関係者からの信頼を得ることができるよう努める。	C	来訪者や電話への対応は、親切かつ丁寧にできた。新型コロナウイルス感染症対策で来訪者の御理解の下、校舎内の立入を制限させていただいた。	電話対応や来訪者への対応について、親切で丁寧な対応を引き続き実践する。生徒の安全や感染症対策に係る健康管理に配慮しながら、教育環境の維持改善に努める。
	適切な事務処理等	経費の節約に努め、適かつ能率的な事務処理を行うとともに、施設や設備の適切な管理運営を行うことで、学校の教育活動の効率化を図る。	C	教育活動を行っていく上で必要不可欠な部分と、節約できる部分を熟考し、予算等を執行することができた。新型コロナウイルス感染症対策も可能な範囲で十分に行うことができた。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。